森の生態系の頂点！

イヌワシについて

イヌワシは、1年を通じて日本に生息する大型の猛禽類であり、森林生態系における生物ピラミッドの頂点に位置します。つまり、イヌワシは豊かな生態系のシンボルと言えます。しかし、ここ30年ほどで急激に個体数と繁殖成功率が減少しています。その原因は、人工林の伐採がされないことや、牧草地等の草原の減少によって、餌をとる狩場が減ったためと考えられています。イヌワシは人里から離れた山奥に生息していますが、人間の生活様式の変化に影響を受けているのです。

環境省と農林水産省では、種の保存法に基づき「イヌワシ保護増殖事業計画」を策定しています。令和3（2021）年に、イヌワシが安定して生息するために必要なつがい数及び繁殖成功率の目標値を策定し、全国で生息環境の改善を進めることとしています。

イヌワシ生息地拡大・改善に向けた全体目標

[目標つがい数]	[目標繁殖成功率]
206 つがい	36.17 %

中部ブロックの目標値

[目標つがい数]	[目標繁殖成功率]
25 つがい	40 %

ニホンイヌワシ

【Aquila Chrysaetos】
タカ目タカ科イヌワシ属

体　長：81~89cm
翼開長：168~213cm
体　重：3~5kg

ノウサギ、ヤマドリ、ヘビなどが主な餌。森のなかの開けた場所（草原、荒地、森林伐採地）で狩りを行う。1つがいの行動範囲は20~250km²と言われ、広大なテリトリーを持つ。

イヌワシってどんな鳥？

（豆知識）

メスの方がオスよりも大きい！

後頭部には日の光を受けると金色に輝く羽毛があり、英名の「ゴールデンイーグル」の由来。

幼鳥のときには白い斑があり、大人になると次第に消えていく。

全国で進んでいます！

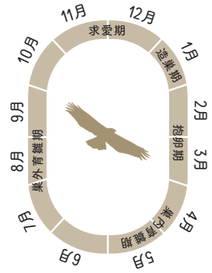
イヌワシの1年の繁殖サイクル

子別れ期

巣立ったヒナは親と別の地域に旅立ちます。

求愛期

つがいが夫婦の絆を確かめ合う時期です。



巣外育雛期

70～80日を巣で過ごしたヒナが巣を離れます。

造巣期

新しい巣をつくりますが、古いものを使うことも。

巣立ち期

ふ化して約6週間ほどでヒナは羽ばたきます。

抱卵期

約1カ月半の間、雌が卵を温めます。

巣内育雛期

ヒナの誕生。雌親が2週間ほど抱き続けます。

1年中大忙し！

他の地域でのイヌワシ保護の取り組み

伐採地を増やして子育てに成功！

群馬県｜赤谷地域

群馬県みなかみ町にある赤谷の森には1つがいのイヌワシが生息しています。2010年から6年連続で繁殖に失敗したため、2015年以降、定期的に人工林の伐採を実施。その結果、伐採地での狩行動が見られ、2016年、2017年、2020年に子育てに成功しています。

イヌワシをふたたび呼び戻す取り組みの真っ最中です

宮城県｜南三陸地域

宮城県南三陸地域にはかつて４つがいのイヌワシが生息していましたが、現在はイヌワシの定着が確認されていません。2016年から国有林、民有林、自治体が連携した活動を開始。林業振興、文化財の原材料としての茅場の管理、ヒツジの放牧、伝統的な山火事対策である火防線の管理とレクリエーション活用など、イヌワシの生息環境保全と、山の多様な産業の両立に取り組んでいます。2021年から「南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト協議会」として活動しています。

発行：令和4年8月
環境省信越自然環境事務所・林野庁中部森林管理局東信森林管理署
協力：長野イヌワシ研究会・公益財団法人日本自然保護協会

環境省による
イヌワシ生息地拡大・改善に向けた
全体目標についてはこちら

雄大な浅間山の美しい大空に、イヌワシが舞う未来のために

みんなで守ろう！

浅間山 イヌワシ 復活 プロジェクト

環境省信越自然環境事務所
林野庁中部森林管理局東信森林管理署

みんなで環境について
考えていこう!!

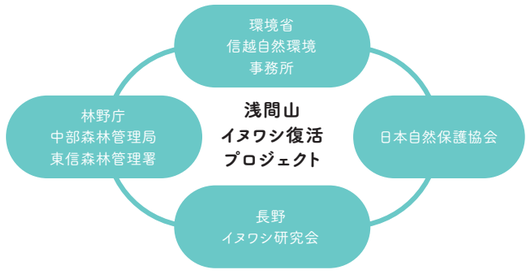
しっかり知ろう！

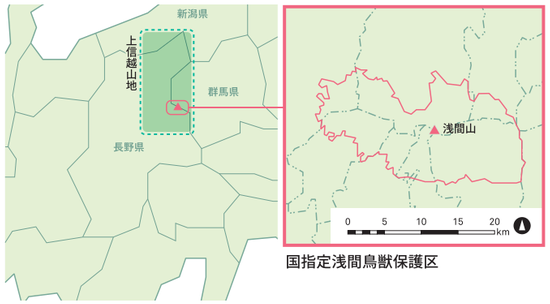
浅間山周辺のイヌワシの現状

浅間山周辺のイヌワシも、近年、個体数の減少が確認されています。
上信越山地は2000年頃まで長野県最大のイヌワシ生息地として、9つがいが生息していましたが、
現在は2つがいと2羽の雄のみとなっており、危機的な状況にあります。

浅間山イヌワシ復活プロジェクトとは？

「浅間山イヌワシ復活プロジェクト」は、国指定浅間鳥獣保護区を対象に、鳥獣保護区の管理を担う環境省信越自然環境事務所と、ほぼ全域の森林管理を担う林野庁中部森林管理局東信森林管理署、長年に渡りイヌワシのモニタリングを続けてきた長野イヌワシ研究会、日本各地でイヌワシの生息環境再生に取り組む日本自然保護協会が連携して、イヌワシの生息環境の改善に取り組むプロジェクトです。





国指定浅間鳥獣保護区

プロジェクトの目標

かつては２つがいのイヌワシが確認されていましたが、現時点ではつがいが形成されず、雄１羽のみしか生息していません。当面は、繁殖期につがいが形成され、繁殖行動が見られることが目標です。

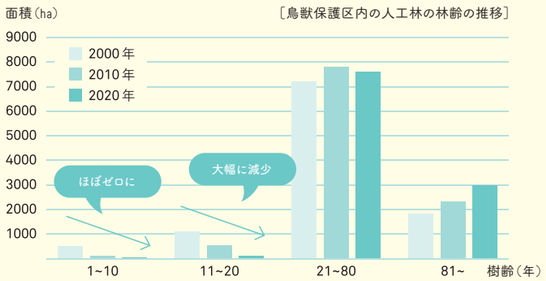
目標 1
国指定鳥獣保護区周辺での
イヌワシ1つがいの安定的な生息

目標 2
生息つがいの繁殖成功率40％以上

Column

若齢の人工林の減少が イヌワシ減少の一因に

翼を広げると2mにもなるイヌワシがノウサギ等の餌動物を獲るためには、開けた空間が必要になります。浅間山周辺でイヌワシが子育てをしていた20年前は20年生未満の人工林が1600ha程ありましたが、現在はその1割以下となり、採餌環境として最も良い10年生未満の人工林はほとんど無くなってしまいました。



考えてみよう！

プロジェクトの取り組み

イヌワシの生息環境の保全のため、
「営巣環境」「餌動物が生息する環境」「採餌環境」
を中心に下記の取組を進めていきます。

1　営巣環境

これまでに利用した巣が現在も利用できる状況で残っていることが確認されています。 現在の営巣地周辺の環境を保全するとともに、落ち着いて繁殖ができる静かな環境が重要であるため、特に繁殖期（11~7月）に興味本位で営巣地を探すこと等は自粛するように普及啓発を行います。

2　餌動物が生息する環境の整備

これまでの調査から、主要な餌動物であるノウサギやヤマドリが一定程度生息していることが確認されています。引き続き、人工林の間伐や、主伐・再造林など適正な森林管理を進めます。

3　採餌環境の改善

浅間山には火山活動による開けた空間が広がっていますが、そこにはイヌワシが捕食するノウサギやヤマドリは生息していません。餌動物が生息する森林内に、地面に降りられる空間を持った採餌環境が必要です。
本プロジェクトでは、上田市、東御市、小諸市、御代田町、軽井沢町の国有林において、人工林の間伐や主伐等の適切な森林管理を積極的に進めることによって、イヌワシの採餌環境の改善を進めていきます。

4　鉛中毒の防止

イヌワシは、ニホンジカ等の狩猟個体の残さを食べることがあり、鉛中毒の危険性が懸念されています。このため、非鉛製銃弾への切替えの促進や、放置の禁止について、浅間鳥獣保護区の関係自治体及び地元猟友会に対し普及啓発を進めます。

5　積極的な保全策

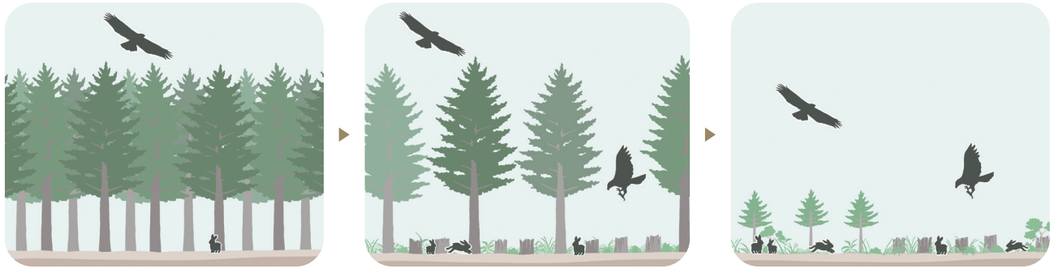
採餌環境の改善を進めても、個体の存続が懸念される場合は、餌不足を改善するための補助的な給餌や、飼育下個体群の野生復帰等、より積極的な保全策も検討します。

Column

地域材の利用促進が イヌワシの保護につながる

イヌワシは豊かな森林生態系のシンボルであり、持続的な森林資源の活用によってその生息環境が保全されます。SDGsやカーボンニュートラルの認知が広まる中で、地元の木材を利用することが、地元のイヌワシの保全に繋がることを普及し、森林管理にかかわる多様な主体と連携した取り組みを進めたいと考えています。

採餌環境の改善イメージ



人工林を生育後、間伐等がされていないと、林内の空間がないため、イヌワシが利用できないだけでなく、餌動物の生息環境にも適していません。

間伐した人工林は明るくなることで下草が生え、餌動物の生息環境が良くなります。間伐したカラマツ人工林の場合、カラマツが落葉した冬には上空から餌動物と林内に入る空間を探して、採餌することもあります。

人工林を伐採して植林してから10年未満は、イヌワシの採餌環境に最適な環境です。草食動物であるノウサギにとっても生息に適した環境です。